

☼ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ☼
 ～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

小学生読書リーダー養成講座が開催されました

今年の小学生読書リーダー養成講座は、6月15日、22日、7月6日の土曜日に3日間開催され、65校222名の子どもたちが熱心に参加しました。その姿に、子どもたちは学校の読書活動推進の中心になって活動してくれるだろうと思いました。

開講式では、福岡市総合図書館の内藤副館長（6/15）、学校指導課の齊藤課長（6/22）、松本館長（7/6）が挨拶をしました。



（挨拶をする松本館長）

講座1「読書リーダーとは」



（小野主任指導主事の質問に元気に手を挙げる子どもたち）

講師は学校指導課の小野主任指導主事でした。講師の先生から、読書リーダーの役割は本が好きなことや、読書の楽しさや面白さを伝えることなどを学びました。講師の質問に、子どもたちは元気に手を挙げていました。

《養成講座の次第》

- ・オリエンテーション
- ・開講式
- ・講座1
「読書リーダーとは」
- ・講座2
「本の探し方」
- ・昼休み
- ・講座3
「絵本の読み聞かせ」
- ・講座4
「POPを作ろう！」
- ・修了式

講座2「本の探し方」

講師は学校図書館支援センターの重村読書相談員でした。講師の先生から図書館の配架の仕組みや本の目次と索引の使い方などについて学びました。「本にはどんな種類がありますか」などの講師の質問に、堂々と答える子どもたちに感心しました。



（重村読書相談員の説明）



（一生懸命課題に取り組む子どもたち）



（大きな声で発表する子ども）

講座3「絵本の読み聞かせ」

講師は学校図書館支援センターの小久井読書相談員でした。講師の先生から読み聞かせに合った本の選び方や持ち方や読み聞かせをする時に気を付けることなどを学びました。その後、1グループ8人程度に分かれての実習で、絵本を読む練習やページをめくる練習などをしました。最後に、グループ内で実習の成果を披露しました。



(小久井読書相談員の絵本の持ち方のお手本)



(二人組になって読み聞かせの練習)



(グループで読み聞かせの実演)

講座4「POP*をつくろう！」

※POP(ポップ)とは、本の魅力を紹介する掲示物です。

重村読書相談員を講師として、POPを作る時に気を付けることを学びました。その後、自分が持ってきた本のPOPを作りました。子どもたちは、フェルトペンで字を書くだけでなく、色紙を使ったり、ハサミで切ったりして、一生懸命POPを作っていました。最後に、POPを作る時に工夫したところなどを発表しました。



(フェルトペンで文字を書く)



(はさみで切ってPOPの形を整える)



(POPを作るときに工夫したところの発表)



(出来上がったPOP)

内藤副館長(6/15)、齊藤学校指導課長(6/22)、松本館長(7/6)から受講生の代表者に認定証と読書リーダーバッジが渡され、その後、読書相談員などから全員にも渡されました。子どもたちは午前中から講座に参加して疲れていたにもかかわらず、修了式での話を聞く姿勢など式に臨む態度は立派でした。



(齊藤課長から認定証をもらう代表の子ども)



(背筋を伸ばして修了式に参加している子どもたち)



(嬉しそうに読書リーダーバッジを見る子どもたち)

8月生まれの文学者



藤 真知子（ふじ まちこ）と「まじょ子」シリーズ

1950年8月30日 東京都生まれ

藤氏は小さいころ病気がちで外で遊べなかったので、読書好きになりました。東京女子大学英文科卒業後、結婚して東京から名古屋に引っ越し、二人の男の子を育てていました。カルチャーセンターで童話の書き方を学んだ時に書いた小学校低学年向け童話をポプラ社に応募すると、入選し、すぐに出版することが決まったので、1985年に「まじょ子どんな子ふしぎな子」で作家デビューをしました。

「まじょ子」シリーズは、まじょ子と出会った人間が様々な体験をするファンタジーで、合計260万部以上を売り上げ、英語や韓国語にも翻訳され、2018年出版の60巻まで続きました。

藤氏は、食卓にワープロを置き、家事の合間や家族の寝た後執筆するなど、子どもを育てながらの作家活動は忙しかったのですが、物語を書いているときは自分が元気になれるので、あまり大変だとは思わなかったそうです。また、夫の転勤で米国や英国に滞在した時や2度の手術で入院した時も執筆し続け、多い時は年間8冊出版しました。

藤氏は、無限の可能性を持つ子どもたちになんでもできる物語の世界を通して夢や希望を持たせたいと思い、物語を書いているそうです。作品は、「わたしのママは魔女」シリーズや「まじょのナニーさん」シリーズなどあり、作家デビュー後、数多くの児童文学を執筆しています。



菅田 哲也（ほんだ てつや）と「武士道シックスティーン」

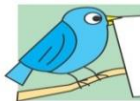
1969年8月18日 東京都生まれ

両親、姉との4人家族の菅田氏は、絵を描くのが好きで13、14歳くらいまでは漫画家になろうと思っていました。15歳の頃からロックバンドを始め、学習院大学経済学部卒業後は、就職せずに家業を手伝いながらプロのミュージシャンを目指していました。

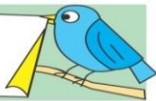
しかし、30歳を目前にして、当時シンガーソングライターとしてデビューしたばかりの椎名林檎氏の才能に圧倒され、ミュージシャンの道を諦めました。小説を書きはじめようと思ったのは、バンドをあきらめる時期と前後して書いていた格闘技サイトの試合レポートを通して、文字を書くことは面白いことに気が付き、元手のかからないもので稼ごうと思ったからだったそうです。そして、バンド時代に書いた歌詞をもとに執筆した「ダークサイド・エンジェル紅鈴 妖の華」で、2002年作家デビューをしました。

「武士道シックスティーン」は、剣道に励む二人の対照的な少女のさわやかな成長物語です。小学校の頃に2～3年剣道を経験していた菅田氏が、編集者との打ち合わせで剣道の話をちょっとしたところ、「それいきましょう」と言われことがきっかけでした。その時、菅田氏は、思わず「本気でそれを言っています？」と聞き返したそうです。

執筆は、毎日、午前8時に仕事場に行き、9時～10時頃に仕事をはじめ、12時に休憩、午後は2時～7時頃まで仕事をし、調子がいい時は1日20枚ほど原稿が書けるそうです。作品は、「武士道セブンティーン」「武士道エイティーン」「武士道ジェネレーション」「ストロベリーナイト」などあります。



♪ 福岡アジア美術館「8月の案内」





*** アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ**

25日(日), 27日(火)

- ・時間: 11:30~12:00, 13:00~13:30
- ・場所: 7階「キッズコーナー」(申し込み不要)

「NTT西日本スペシャル おいでよ!絵本ミュージアム2019」

- ・期間: 7月18日(木) ~ 8月18日(日) ※会期中無休
- ・時間: 9:30~17:30 (入場は17:00まで)
- ・観覧料: 一般1000円(800円), 高大生700円(500円), 小中生500円(300円), 未就学児は無料
※()内は前売り, 団体料金
※チケットは当日に限りフリーパス



「おいでよ!絵本ミュージアム2019」
©きくちきち

- ・会場: 企画ギャラリー(7F)ほか
- ・内容: 毎年恒例の夏の企画展。子どもたちの感性や想像力・創造力を育むために、1000冊の絵本や原画の展示をはじめ、五感に働きかける多彩な仕掛けやイベント、絵本の世界に入り込めるような空間をプロデュースします。
13回目となる今年は、これまで以上に子どもならではの感性の大切さを伝えます。
※ 「おいでよ!絵本ミュージアム2019」の会期中は、絵本の読み聞かせを毎日開催!
(1日2回 時間: 11:30~ , 13:00~)
※ 会期中の毎週金曜日は、TNCテレビ西日本アナウンサーが読み聞かせを行います。



♪ 福岡市総合図書館「8月の案内」





*** 毎月のおはなし会**

3日(土), 4日(日), 10日(土), 11日(日)

17日(土), 18日(日), 24日(土), 25日(日), 31日(土)

- ・時間 土曜日: 3日, 10日, 17日, 24日
14:10~14:25 赤ちゃん向けおはなし会
14:30~14:50 幼児~小学生向けおはなし会
- 31日
14:30~15:00 幼児~小学生向けおはなし会
- 日曜日: 14:30~15:00 幼児向けおはなし会
15:15~15:45 小学生向けおはなし会

- ・場所 こども図書館 おはなしの家

☆ あとがき

小学生読書リーダー養成講座があつている中、同じ学校ではないのに隣の子の具合がよくないことを教えに来てくれた子、講座が終わった後、わざわざ前に来て「ありがとうございました。」と言ってお辞儀をして帰っていく子、床に落ちていた紙屑を黙って拾って捨てに行く子など、昨年以上に子どもたちのすばらしい行動に感心しました。きっと、学校や家庭での声掛けの成果だと思いました。

講座に参加した子どもたちの感想は、「読み聞かせの時の本の持ち方などが教えてもらってよかったです。」「学校でもPOP作りをやってみたいです。」「本の探し方、絵本の読み聞かせの仕方など、ふだんの生活で役立ちそうでとても参考になりました。」など、講座で学んだことを学校や日常生活で活用しようという積極的な感想が多く、読書活動に活かしてくれることと思いました。

発 行：福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話：092-711-4655 FAX：092-733-5538

図書館員のひみつの本棚 第159回

図書館が舞台の物語。

『図書館の神様』

瀬尾まいこ／著 マガジンハウス 2003年 1200円（税抜）

<お勧め年齢>

乳幼児-- 低学年-- 中学年-- 高学年-- 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（☆が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

主人公の清（きよ）は青春をバレーボールに捧げてきたのですが、ある出来事からバレーボールと距離をおくことになってしまいます。

時を経て、バレーボールへの気持ちが強くなってきた清は、恋人の助言もあり、バレーボール部の顧問になることを目的に、全く興味のなかった高校の国語の講師の職につきます。

しかし、清が顧問を務めることになった部活は文芸部。部員はたったの1人。3年生の垣内君。がっかりした清ですが、垣内君との文芸部の活動が、清からバレーボールを遠ざけた出来事について、清に救いとも呼べる心の変化をもたらしてくれます。

作者は『そして、バトンは渡された』で2019年の本屋大賞を受賞しています。

<子どもに手渡す時のポイント>

作中の清と垣内君の会話の中に、川端康成や三島由紀夫などの作家や文学作品が面白く登場します。それらの作家や作品を併せて紹介すると、普段は手に取らない文学にも目を向けてもらえるのではないかと思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

